

安全データシート

改訂日：2022年9月9日

1. 化学品及び会社情報
化学品の名称(製品名)
推奨用途
会社名
住所
電話番号

2-フェネチルアルコール(β-)
試験研究用
米山薬品工業株式会社
大阪府中央区道修町2丁目3番11号
(06)6231-3555(大阪・本社)
(03)3246-2311(東京) (0268)22-5910(上田)
(052)504-2221(名古屋) (082)537-0290(広島)
FC0106

整理番号

2. 危険有害性の要約
GHS分類
物理化学的危険性
健康に対する有害性

急性毒性(経口)：区分4
急性毒性(経皮)：区分3
眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性：区分2
生殖毒性：区分2
特定標的臓器毒性：区分2(肝臓、腎臓)
(単回ばく露)
特定標的臓器毒性：区分3(麻酔作用)
(単回ばく露)

GHSラベル要素
絵表示又はシンボル



注意喚起語
危険有害性情報

危険
飲み込むと有害
皮膚に接触すると有毒
強い眼刺激
眠気又はめまいのおそれ
生殖能又は胎児への悪影響のおそれの疑い
肝臓、腎臓の障害のおそれ

注意書き

【安全対策】
全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーを吸入しないこと。
粉じん/煙/ガス/ミスト/蒸気/スプレーの吸入を避けること。
取扱い後は手などをよく洗うこと。
この製品を使用するときに、飲食又は喫煙をしないこと。
屋外又は換気の良い場所でのみ使用すること。
保護手袋/保護衣/保護眼鏡/保護面を着用すること。
【応急措置】
飲み込んだ場合、気分が悪いときは医師に連絡すること。
皮膚に付着した場合、多量の水と石鹼で洗うこと。
吸入した場合、空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
眼に入った場合、水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の連絡をすること。
ばく露又はばく露の懸念がある場合、医師の診断/手当を受けること。
気分が悪いときは医師に連絡すること。
口をすすぐこと。
眼の刺激が続く場合、医師の診断/手当を受けること。
汚染された衣類をただちに全て脱ぎ、再使用する場合には洗濯をすること。
【保管】
容器を密閉し、涼しく換気の良いところで保管すること。
施錠して保管すること。
【廃棄】
内容物、容器を都道府県知事の許可を受けた専門の廃棄物処理業者に業務委託すること。

3. 組成、成分情報

化学物質・混合物の区別	化学物質
化学名又は一般名	2-フェネチルアルコール(β-)
別名	2-ヒドロキシエチルベンゼン(β-)xx、2-フェニルエタノール(β-) フェニルエチルアルコール
化学式	C ₆ H ₅ CH ₂ CH ₂ OH
化学物質を特定できる一般的な番号	CAS RN: 60-12-8
濃度又は濃度範囲(含有率)	98%以上
官報公示整理番号(化審法/安衛法)	(3)-1032
その他	HSコード:2906.29
4. 応急措置	
吸入した場合	気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。 空気の新鮮な場所に移し、呼吸しやすい姿勢で休息させること。
皮膚に付着した場合	多量の水と石鹸で洗うこと。 皮膚刺激が生じた場合、医師の診断、手当てを受けること。
眼に入った場合	水で数分間注意深く洗うこと。次にコンタクトレンズを着用していて容易に外せる場合は外すこと。その後も洗浄を続けること。 眼の刺激が持続する場合は、医師の診断、手当てを受けること。
飲み込んだ場合	口をすすぐこと。 気分が悪い時は、医師の診断、手当てを受けること。
予想される急性症状及び遅発性症状	吸入: 咳、息苦しさ、息切れ、咽頭痛。 皮膚: 発赤。 眼: 発赤、痛み。 経口摂取: 腹痛、灼熱感。
5. 火災時の措置	
適切な消火剤	泡消火剤、粉末消火剤、炭酸ガス、乾燥砂類
使ってはならない消火剤	データなし
特有の危険有害性	引火性の高い液体および蒸気。 消火後再び発火するおそれがある。 火災時に刺激性、腐食性及び毒性のガスを発生するおそれがある。
特有の消火方法	危険でなければ火災区域から容器を移動する。 容器が熱に晒されているときは、移動しない。 安全に対処できるならば着火源を除去すること。
消火を行う者の保護	適切な空気呼吸器、防護服(耐熱性)を着用する。
6. 漏出時の措置	
人体に対する注意事項、保護具および緊急措置	全ての着火源を取り除く。 直ちに、全ての方向に適切な距離を漏洩区域として隔離する。 関係者以外の立入りを禁止する。 密閉された場所に立入る前に換気する。
環境に対する注意事項	環境に放出しないこと。
回収・中和	不活性材料(例えば、乾燥砂又は土等)で流出物を吸収して、化学品廃棄容器に入れる。
封じ込め及び浄化方法・機材	危険でなければ漏れを止め
二次災害の防止策	すべての発火源を速やかに取除く(近傍での喫煙、火花や火炎の禁止)。 排水溝、下水溝、地下室あるいは閉鎖場所への流入を防ぐ。
7. 取扱い及び保管上の注意	
取扱い	消防法の規定に従う。
技術的対策	『8. ばく露防止及び保護措置』に記載の局所排気、全体換気を行う。
局所排気・全体換気	取扱後は手をよく洗うこと。
安全取扱い注意事項	この製品を使用する時に、飲食または喫煙をしないこと。 適切な保護手袋、保護衣を着用すること。 取扱後は眼をよく洗うこと。 適切な保護眼鏡、保護面を着用すること。 使用前に取扱説明書を入手すること。 全ての安全注意を読み理解するまで取り扱わないこと。 適切な個人用保護具を使用すること。 ミスト、蒸気、スプレーを吸入しないこと。 屋外または換気の良い場所でのみ使用すること。 10項に示す混触危険物質との接触を回避する。
接触回避	
保管	
技術的対策	消防法の規定に従う。
保管条件	換気の良い場所で保管すること。 容器を密閉しておくこと。 施錠して保管すること。
容器包装材料	ガラス、スチール

8. 暴露防止及び保護措置

許容濃度

管理濃度

日本産業衛生学会

ACGIH

設備対策

未設定

未設定

未設定

この物質を貯蔵ないし取扱う作業場には、適切な洗眼器と安全シャワーを設置すること。

ばく露を防止するため、作業場には適切な全体換気装置、局所排気装置を設置すること。

保護具

呼吸器の保護具

手の保護具

眼の保護具

皮膚及び身体の保護具

衛生対策

適切な呼吸器保護具を着用すること。

適切な保護手袋を着用すること。

適切な眼の保護具を着用すること。

適切な保護衣を着用すること。

取扱い後はよく手を洗うこと。

9. 物理的及び化学的性質

物理状態

色

臭い

融点・凝固点

沸点又は初留点及び沸騰範囲

燃焼性(固体、気体)

爆発下限界及び爆発上限界/可燃限界

引火点

自然発火温度

分解温度

pH

粘度(粘性率)

溶解度

n-オクタノール/水分配係数

蒸気圧

密度及び/又は相対密度

相対ガス密度

液体: Merck(14th, 2006)

無色: Ullmanns(E)(6th, 2003)

バラのような花の香り: Merck(14th, 2006)

-27 °C: Merck(14th, 2006)

219.8 °C: Ullmanns(E)(6th, 2003)

該当情報なし。

1.1-7.5 vol-%, 55-380 g/m³: GESTIS(Access on Oct. 2010)

96 °C(CC): Lide(90th, 2009)

410 °C: NITE総合検索(Access on Oct. 2010)

該当情報なし。

6~7 (20°C, 20g/L)

7.58 mPa・s (25°C)

アルコール、エーテルと混和: HSDB(2002)

log Kow = 1.36: Howard(1997)

該当情報なし。

1.02g/cm³ (20°C): GESTIS

該当情報なし。

10. 安定性及び反応性

反応性、化学的安定性

危険有害反応可能性

避けるべき条件

混触危険物質

危険有害な分解生成物

法規制に従った保管及び取扱いにおいては安定と考えられる

加熱すると分解し、刺激臭のある煙、刺激性のヒュームを生じる。強酸化剤、強酸と反応する。

加熱

強酸化剤、強酸

刺激臭のある煙、刺激性のヒューム

11. 有害性情報

急性毒性

経口:

ラットLD50値のデータとして、1800、1500、1800、2500、1700 mg/kg (以上 JECFA (2003))、2509 mg/kg (PATTY (5th, 2001)) の6件が報告され、うち4件が区分4に該当することから、区分4とした。

経皮:

ウサギLD50値: 805 mg/kg bw (PATTY (5th, 2001)) に基づき区分3とした。

吸入:
(ミスト)

ラットLC50値は>1.38 mg/L/4h (IUCLID (2000)) との報告があるが、区分を特定できないので「分類できない」とした。なお、"aerosol"にばく露との記載 (IUCLID (2000)) により、ミスト/粉塵の区分基準値を適用した。

皮膚腐食性及び皮膚刺激性

ウサギの皮膚に試験物質原液0.5 mLを4時間適用した試験 (OECD TG404) を2回繰り返した結果、一次刺激性指数 (PII) は2.22および0.92であった (ECETOC TR66 (1995)) こと、およびヒト被験者20人に試験物質原液を24時間適用し刺激性なし (not irritating) との結果 (IUCLID (2000)) に基づき、区分外とした。

眼に対する重篤な損傷性又は眼刺激性

ウサギの眼に試験物質原液0.005 mLまたは5-15%のpropylene glycol溶液0.5 mLを適用し、いずれも重度の角膜刺激と虹彩炎 (severe corneal irritation and iritis) の結果 (PATTY (5th, 2001)) に基づき区分2とした。なお、ヒトの眼に0.75及び0.6%水溶液の適用により刺激性 (PATTY (5th, 2001)) が報告されている。

呼吸器感受性又は皮膚感受性

呼吸器:

該当情報なし。

皮膚:	データ不足。なお、モルモットを用いた皮膚感作性試験の結果として、Optimization testで感作性あり、Open epicutaneous testでは感作性なしと報告され（IUCLID（2000））、相反する結果であり、また、いずれもOECDで承認された試験法ではない。一方、ヒトでは、25人の被験者による皮膚感作性試験で当該物質は陽性反応を示さなかった（PATTY（5th, 2001））と報告されている一方、種一の皮膚症状を有する患者で感作性を示す局所反応が認められた（PATTY（5th, 2001））との報告もある。
生殖細胞変異原性	In vivo試験データが無いので分類できない。なお、in vitro試験では、エームス試験で陰性結果（JECFA（2003））が報告されている。
発がん性	該当情報なし。
生殖毒性	妊娠ラットの器官形成期に経口投与した試験において、母動物の一般毒性について記述はないが、仔に対して、眼の変化、神経管欠損、水腎、四肢欠損を主とする奇形発生率の用量依存的な増加が報告されている（JECFA（2003））。また、妊娠ラットの器官形成期に経皮投与した試験においては、高用量群では死亡を含む体重増加抑制など母動物の一般毒性の発現とともに、吸収、胚損失、同腹仔数の低下、内臓と骨格の広範囲の変化に見られる胚・胎児毒性が現れ、形態学的変化は母体毒性の二次的影響の発生範囲を超えるものであると考えられた（JECFA（2003））との記述があり、区分2とした。
特定標的臓器毒性（単回暴露）	ラットの急性経口毒性試験（LD50値は650-1430 mg/kg）において、肝臓および腎臓の変性が観察され、肝臓では、充血および軽度の脂肪変化、一方、腎臓では、髄質で尿細管壊死、皮質で尿細管細胞の混濁腫脹と円柱形成が認められた（IUCLID（2000））。LD50値からガイダンス区分2に相当する用量での所見であることから、区分2（肝臓、腎臓）とした。また、マウスの急性経口試験では、1~2 mg/kgの用量で1~5分以内にほとんどの動物に麻酔が生じた（IUCLID（2000））ことから区分3（麻酔作用）とした。
特定標的臓器毒性（反復暴露）	ラットに51 mg/kg bw/dayを4ヵ月間反復経口投与により、コリンエステラーゼとALT活性の増加、血清蛋白量の減少などが報告され（JECFA（2003））、また、ラットの30日間反復経口投与試験の所見では、200 mg/kg bw/day（90日補正：66.7mg/kg bw/day）で内臓障害、ヘモグロビン量および白血球数の減少などの記載がある（IUCLID（2000））。しかし、これらの試験はいずれも病理組織学的影響に言及されず、結果の詳細も不明なためデータ不足である。また、ラットに13週間経皮投与した試験において、2040 mg/kg/day群の雄でヘモグロビン濃度および白血球数の低下が観察されたが、投与に関連する病理組織学的な変化はなく、その他に悪影響も認められていない（PATTY（5th, 2001））ので、経皮投与では区分外相当となるが、特定標的臓器毒性（反復暴露）の分類としては「分類できない」とした。
誤えん有害性	該当情報なし。
12. 環境影響情報	
生態毒性	短期：甲殻類（オオミジンコ）の48時間EC50 = 287 mg/L（IUCLID, 2000）から区分外とした。 長期：急性毒性区分外であり、難水溶性ではない（水溶解度：22200 mg/L（PHYSPROP Database, 2011））ことから区分外とした。
残留性・分解性	該当情報なし。
生体蓄積性	該当情報なし。
土壌中の移動性	該当情報なし。
オゾン層への有害性	当該物質はモントリオール議定書の附属書に列記されていない。（GHS分類：分類できない）
13. 廃棄上の注意	
化学品、汚染容器及び包装の安全でかつ環境上望ましい廃棄、又はリサイクルに関する情報	産業廃棄物処理認定業者に委託して処理する。
14. 輸送上の注意	
国連番号	2810
品名(国連輸送名)	その他の毒物（有機物）（液体）
国連分類	6.1
容器等級	III
輸送又は輸送手段に関する特別の安全対策	運搬に際しては容器に漏れないことを確かめ、転倒、落下、損傷がないよう積み込み、荷くずれの防止を確実にを行う。
国内規制がある場合の規制情報	
陸上輸送	消防法の規定に従う。
海上輸送	船舶安全法の規定に従う。
航空輸送	航空法の規定に従う。
応急措置指針番号	153
15. 適用法令	

化学物質管理促進法 (PRTR法)
毒物及び劇物取締法
労働安全衛生法

指定化学物質に該当しない。
毒物及び劇物に該当しない。
名称等を表示し、又は通知すべき危険物及び有害物〔ベータ-フェニルエチルアルコール(別名フェネチルアルコール)〕〔施行令別表9〕(2026年(令和8年4月1日)以降)
危険性又は有害性を調査すべき物〔ベータ-フェニルエチルアルコール(別名フェネチルアルコール)〕(2026年(令和8年4月1日)以降)
危険物・引火性の物
第4類引火性液体、第三石油類非水溶性液体
毒物類・毒物
毒物類・毒物

消防法
船舶安全法
航空法

16. その他の情報

引用文献

安全衛生情報センターHP
NITE-CHRIP(製品評価技術基盤機構HP)

その他

記載内容のうち、含有量、物理/化学的性質等の数値は保証値ではありません。危険・有害性の評価は、現時点で入手できる資料・情報データ等に基づいて作成しておりますが、すべての資料を網羅した訳ではありませんので取り扱いには十分注意して下さい。